

あわじ石の寝屋緑地リノベーション計画

令和8年3月

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所

兵庫県まちづくり部公園緑地課

目 次

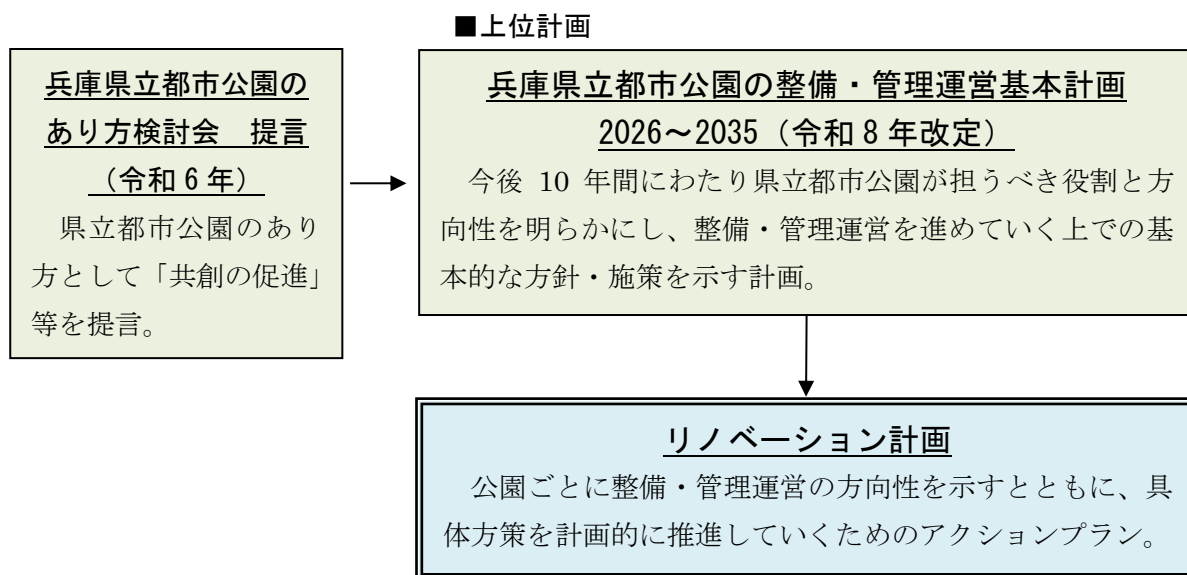
1 計画の基本的事項	1
1-1 背景と目的	1
1-2 リノベーション計画更新の考え方	1
2 計画の推進	3
2-1 都市公園を取り巻く状況	3
2-2 リノベーション計画の進め方	4
(参考)【表 県立都市公園の成り立ち】	5
3 あわじ石の寝屋緑地の計画内容	6
3-1 あわじ石の寝屋緑地の概要	6
3-2 リノベーションテーマ	9
3-3 リノベーション方針	9
3-4 取組内容	12

1 計画の基本的事項

1-1 背景と目的

兵庫県では、「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画 2026～2035」（以下、「基本計画」という。）に基づき、「誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園」の実現を目指し、県立都市公園の整備・管理運営を推進しています。

基本計画では、全ての県立都市公園を対象にして、基本的な方針・施策を示すとともに、各公園が取り組むべき具体的な内容について、各公園のリノベーション計画（アクションプラン）に位置づけた上で、「共創」の理念のもと、事業を展開していくこととしています。



1-2 リノベーション計画更新の考え方

社会情勢等を踏まえ、管理運営協議会等で検討した上で、随時、計画の点検・見直しを行います。

Column 兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画とは？

「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画 2026～2035」では、県立都市公園の将来像、推進体制及び方針・施策を下記のとおり定めています。

将来像

誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園

県民と育む推進体制

将来像の実現に向けて、様々な分野の県民・指定管理者・行政が「共創」の理念のもと、それぞれの役割を發揮しながら、基本計画の施策を推進していきます。

施策方針と施策

将来像	施策方針	施策
誰もが自分らしく生き生きと過ごせ、人や地域がつながる公園	1 県民にとってより身近な公園	(1) 心身の健康の増進
		(2) こどもの健やかな成長の促進
		(3) 安全・安心な場としての充実
	2 誰もが自分らしく過ごせる公園	(4) 多様な過ごし方の実現
		(5) 誰もが快適に利用できる環境づくり
	3 地域のつながりを育む公園	(6) 地域連携の推進と地域文化の保全
	4 自然環境を次世代へつなぐ公園	(7) 生物多様性確保の推進
		(8) 気候変動への対応の推進
	5 持続可能なパークマネジメントの推進	(9) 老朽化対策や改修の計画的な推進
		(10) 持続可能な管理運営の推進

2 計画の推進

2-1 都市公園を取り巻く状況

基本計画では、都市公園を取り巻く潮流や都市公園に求められる事項を下記のとおり整理しています。リノベーション計画において、各公園における具体的な取組内容を検討する際は、下記事項を踏まえて検討します。

●潮流

(1)まちづくりGX

「気候変動への対応」、「生物多様性の確保」、「Well-beingの向上」等の社会的要請に対して、都市公園の多様な機能を活かした取組を推進。

(2)都市公園法の改正(平成29年)

平成29年の都市公園法の改正により、民間活力を活用したPark-PFI制度が新たに設けられ、官民連携を推進する制度が拡充。

(3)国による都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(令和4年)

提言では、“使われ活きる公園”の実現に向け、「まちの資産とする」、「個性を活かす」、「共に育て共に創る」の3つの変革と、「グリーンインフラとしての利活用」、「誰もが快適に過ごせる空間づくり」、「利用ルールの弾力化」、「社会実験の場としての利活用」、「担い手拡大と共創」、「自主性の向上」、「公園DXの推進」の7つの重点施策が示されている。

(4)県による県立都市公園のあり方検討会提言(令和6年)

提言では、都市公園の整備・管理運営においては、「県民参画による共創の促進」と、「公園の特性に応じた柔軟な対応」等が重要と示されている。

●都市公園に求められること

(1)公園利用の変化への対応

- ・障がいのある方や高齢者、外国の方等、多様な利用者が快適に過ごせる空間づくり
- ・多様化する利用ニーズに対応するため、利用ルールの柔軟な運用（ボール遊び等）

(2)地域との連携強化

- ・地域活性化や地域課題の解決に向けた、周辺施設や民間企業との連携強化
- ・地域文化の継承に向け、公園資源や周辺地域の資源を活用した取組の推進

(3)環境問題への対応

- ・生物多様性の確保や気候変動への対応に向けた、都市公園が持つ多様な機能を活かした取組の推進

(4)公園の持続的な管理運営

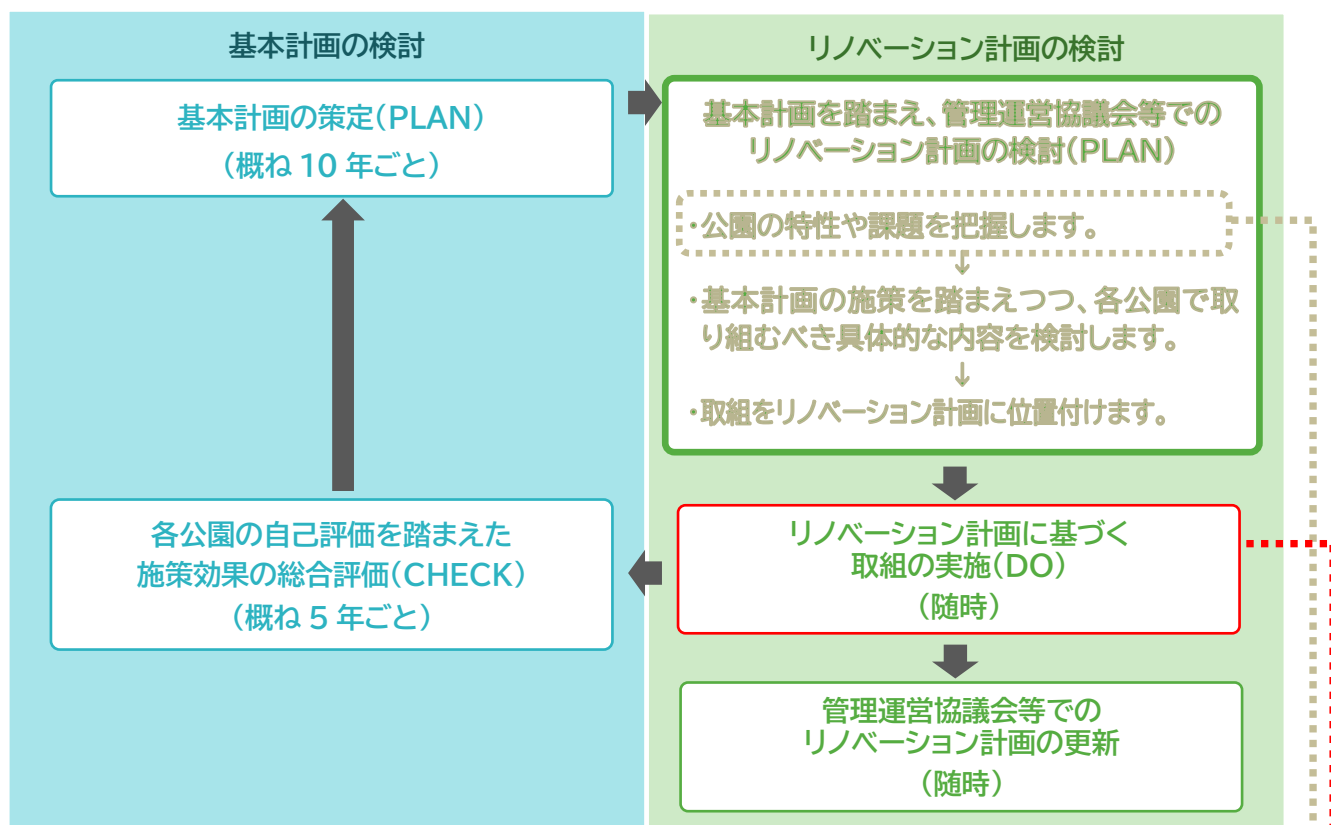
- ・県民が公園運営に参加し、活躍できる場の創出や、地域と行政をつなぐ人材の育成

2-2 リノベーション計画の進め方

リノベーション計画は、管理運営協議会等を通じて県民の意見を適切に反映しながら、具体的な取組内容を検討していきます。そして、時代の潮流や利用者ニーズの変化に柔軟に対応するため、取り組む内容については必要に応じて随時見直しや更新を行います。

また、リノベーション計画の取組実績等は、基本計画の総合評価等にフィードバックし、次期計画への改善・反映につなげていきます。

具体的なフローは以下のとおりです。



※公園の特性把握に向けた調査・検討の視点

■これまでの取組の蓄積を振り返る

過去の取組実績とその成果を振り返り、各公園が今後も継続・発展させるべき事項を整理します。

■公園内外の資源を確認する

公園内の施設や周辺地域・環境が有する資源（自然、歴史遺産、文化的営み、観光施設等）に着目し、公園の強みや周辺と機能分担すべき事項を確認します。

■利用実態・利用ニーズを把握する

利用者アンケート等の結果を分析し、時代に応じて利用者が公園に求めているものを把握します。

※リノベーション計画の実施について

県が優先順位に基づく実施スケジュール案を管理運営協議会等で示し、協議を経た上で実施します。

(参考)【表 県立都市公園の成り立ち】

時期		県立都市公園の成り立ちと歴史													県等の動向		国等の動向			
		明石	甲山森林	播磨中央	淡路島	赤穂海浜	一庫	有馬富士	三木防	丹波並木道	淡路佐野	西猪名	舞子	瀬山	尼森	石の寝屋				
第1期	明治から戦前・戦後	M16	<p>○M16民営公園として開園</p> <p>■M17明石公園開設 民営公園として開園後、御料地への編入を経て、県立公園として開園</p> <p>□T13拡張(南部) □S7拡張(野球場整備等)</p> <p>■M33舞子公園開設 「地盤国有公園」として誕生した初の県立都市公園 松林を中心に広く一般に供された</p>													◆S22 第1回国体開催(宝塚市等)	○M6 太政官布達、公園制度の創設 ○T8 (旧)都市計画法の交付、公園が都市計画対象となる			
第2期	高度経済成長	S30	<p>□S44～各施設の順次改修、新設</p> <p>■S45甲山森林公園開園 甲山周辺の緑地の保全、豊かな自然の中での健康づくりをテーマとして整備</p> <p>□S48整備着手:「兵庫百年」「明治百年」記念事業として整備 □S51整備着手</p> <p>■S53播磨中央公園開園 東播磨地域の文化・スポーツ・レクリエーションの核 「緑の回廊計画」の中核施設としての整備</p> <p>○S56軟式高校野球全国大会会場としての使用開始</p> <p>○S58一庫タムの管理開始</p> <p>○S58レクリエーション開発構想「三田サン・イベント構想」</p> <p>■S57西猪名公園開園 伊丹空港周辺の環境整備事業の一環として工場跡地(運輸省買収)を整備</p> <p>○S38瀬山における土砂採取開始</p>													□S41 「県勢振興計画」 ◆S42 「兵庫百年」「明治百年」記念事業	○S31 都市公園法の公布 ○S37 全総<地域間の均衡ある発展> ○S43 都市計画法(新法)の公布 ○S44 新全総<豊かな環境の創造> ○S47 「都市公園等整備五箇年計画」			
第3期	都市の拡大とバブル景気	S60	<p>■S60淡路島公園開園 淡路島内及び周辺地域のレクリエーション需要への対応</p> <p>□S61拡張計画 昭和天皇在位60周年記念健康運動公園に指定</p> <p>■S62赤穂海浜公園開園 西播磨地域の多様なスポーツ、レクリエーション需要への対応</p> <p>□H1追加開園(赤穂わくわくロード) ○H1「丹波の森構想」策定 □H2追加開園(赤穂広場等) ○H2基本計画策定</p> <p>□H4計画見直し □H3追加開園(泉民の森等) 緑地保全を優先した計画に見直し</p> <p>○S60追加開園(ウォーターランド、テニスコート)</p> <p>□S60追加開園(ウォーターランド、テニスコート)</p> <p>○S58土砂採取の終了 □H6基本構想策定</p>													□S60 「全県全土公園化構想」 □S61 「兵庫2001年計画」	○S61 「第4次都市公園等整備五箇年計画」 ◆S63 ボンボン'88開催 □H3 「緑の総量確保推進計画」			
第4期	阪神淡路大震災以降	H8	<p>□H9追加開園(オートキャンプ場) □H10追加開園(ハイウェイアシンス等)</p> <p>■H10一庫公園開園 緑の保全を第一の課題とし、「自然と人の出合いの場」を メインテーマとして整備</p> <p>□H11追加開園(駐車場) ○H11明石海峡大橋建設に伴う大改造</p> <p>■H12瀬山緑地開園 瀬山周辺土砂採取跡地の長大な斜面地の緑の回復</p> <p>□H13基本計画見直し(埋文調査) ○H13移情閣が国指定文化財</p> <p>■H13有馬富士公園開園 阪神間北部の豊かな自然環境の保全、増大する多様なレクリエーション需要への対応</p> <p>□H14全面供用 ○H14「尼崎21世紀の森構想」策定</p> <p>■H15淡路佐野運動公園開園 全国・県大会レベルの公式大会の開催、 野球王国兵庫への支援、特に少年野球の夢舞台づくり</p> <p>□H15拡張 ○H15基本計画策定</p> <p>■H17三木防災総合公園開園 県下全域を対象とする圏域防災拠点、 レクリエーション、地域スポーツの振興拠点として整備</p> <p>□H18(芝生広場)、H19(屋内テニスコート)追加開園 ○H18「尼崎21世紀の森構想」に基づく森づくりの リーディングプロジェクトとして整備</p> <p>■H19丹波並木道中央公園開園 「丹波の森構想」中核施設として整備</p> <p>□H21第1期事業完成 ○H21追加開園(日本下家住宅)</p> <p>□H21追加開園(クラフトゴルフ場) ○H21間伐実施</p> <p>□H22追加開園(自然体験の森ゾーン他) ○H22追加開園(旧武蔵山治邸)、クラフトオープン</p> <p>□H23追加開園(草原と花のゾーン) ○H23追加開園(第2多目的グラウンド)</p> <p>□H26「新宮晋風のミュージアム」オープン ○H26,27追加開園(大芝生広場他)</p> <p>□H26第2期区域の都市計画廃止 ○H27「丹波地域恐竜ワールドミュージアム構想」においてコア施設として位置づけ</p> <p>■H27あわじ石の寝屋緑地開園 明石海峡大橋周辺地域における無秩序な開発抑制、 緑地の保全</p> <p>□H29「ニジゲンノリ」オープン ○H30追加開園(屋内練習場) □H30追加開園</p> <p>○H30明石公園開園100周年 ○H30グランピング施設オープン ○R1ラグビーワールドカップ事前キャンプ地</p> <p>○H31明石城築城400周年 ○R1日本遺産『日本第一』の塩を産したまち 播州赤穂 認定</p> <p>○R5サイクリングコース供用開始 ○R5開伐実施 ○R5尼崎の森、石の寝屋 自然共生サイト登録</p> <p>○R7長期指定管理開始</p>													□H8 「兵庫県グリーンフェニックス計画」 ◆H10 明石海峡大橋の直通	○H10 21世紀の国土のグランドデザイン <多軸型国土構造形成の基礎づくり> ○H10 「第6次都市公園等整備五箇年計画」			
第5期	これから	R8	<p>「県立都市公園の整備・管理運営基本計画2026～2035」 ①計画期間：2026～2035(10年間) 概ね5年で計画の点検 ②施策方針： 1 県民にとってより身近な公園 2 誰もが自分らしく過ごせる公園 3 地域のつながりを育む公園 4 自然環境を次世代へつなぐ公園 5 持続可能なパークマネジメントの推進</p>													◆R3 淡路花博2021花みどりフェア □R3 「ひょうごビジョン2050」 □R5 県立都市公園のあり方検討会提言 ◆R7 淡路花博2025花みどりフェア □R7 「県立都市公園の整備・管理運営基本計画2026～2035」 □R9 「緑の広域計画」策定	○H15 地方自治法改正(指定管理者制度) ○H16 都市緑地保全法、都市公園法の一部改正 ○H26 国土のグランドデザイン2050 <コンパクト+ネットワーク> ○H27 持続可能な開発のための2030アジェンダの採択 ○H27 国土形成計画 ○H29 都市公園法改正(Park-PFI) ○R2 ニューノーマルに対応した公園の活用 ○R6 都市緑地法改正(緑の広域計画)			

■県立都市公園としての開園、□各公園に関連する動向(計画見直し、追加整備等) ○各公園に関する出来事(イベント、周辺地域の動向)

□:関連計画等
◆:関連イベント、出来事等

3 あわじ石の寝屋緑地の計画内容

3-1 あわじ石の寝屋緑地の概要

(1) 公園概要

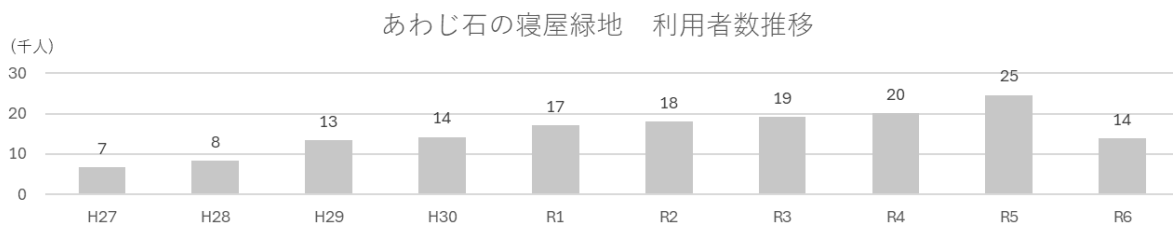
公園名	あわじ石の寝屋緑地	
開設年月日	平成 27 (2015) 年 4 月 1 日	
面積	計画面積：75.4h 開園面積：37.5ha	
公園種別	都市緑地	
主な施設	園路、森の広場、展望台、いきものたんぼ、トイレ、四阿、水飲み場、石の寝屋古墳群	

明石海峡を望む淡路島北側の丘陵地にあり、明石海峡大橋周辺の緑豊かな美しい景観の保全と、絶滅危惧種の猛禽類サシバ、ハチクマの渡りの観察をはじめ、貴重種が棲息する自然環境の保全を目的とした都市緑地である。

園内には自然を生かした周回園路、明石海峡大橋を眼下に望む展望台があるほか、「日本書紀」の海人（あま）の男狭磯（おさし）伝説を今に伝える石の寝屋古墳群がある。

(2) 利用者数の推移

平成 27 年の開園以来、利用者数は増加し、令和 5 年度には過去最大の 25 千人となったが、令和 6 年度は 14 千人に減少している。



(3) 施設配置図



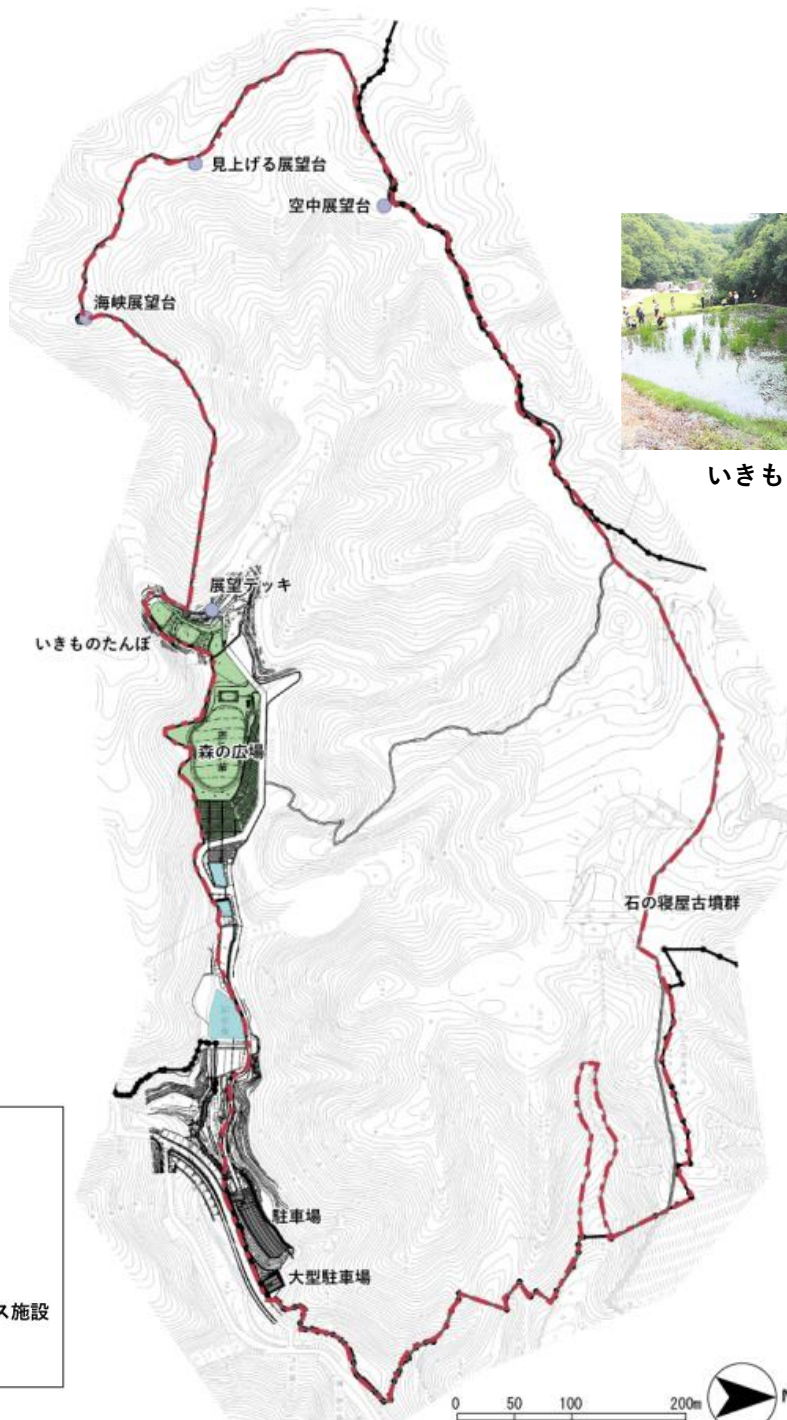
森の広場



見上げる展望台



海峡展望台



いきものたんぼ

凡例	
	公園区域
	広場・庭園
	池・水辺
	文化・サービス施設
	駐車場

(4) あわじ石の寝屋緑地の成り立ち

公園名	時 期													これから R8						
	戦後復興及び高度経済成長					都市拡大とバブル景気			阪神淡路大震災以降											
	S20	S30	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H8	H13	H18	H23	H28	R3					
	緑の回廊計画					全県全土公園化構想			兵庫県グリーンフェニックス計画			兵庫県立都市公園の整備・管理運営の基本方針			兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画		あわじ石の寝屋緑地リノベーション計画		兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画[2026~2035]	
あわじ石の寝屋緑地	取組み概要														自然環境の保全 (明石海峡大橋及び淡路縦貫道の開通に伴う開発抑制)	子供たちの自然環境学習の場の整備	住民の参画と協働への取組み	共創の促進		
	整備	OS62:明石海峡大橋の正面の自然の乱発防止ため用地取得	H6:石の寝屋地区基本構想の策定	H14:基本計画策定	H20:事業再評価、基本設計の見直し	H27:開園												○森林・竹林の適切な管理	○環境学習の取組拡大	○長寿命化対策による老朽化施設の改修・更新を順次実施
	管理・運営												H21~22:あわじ石の寝屋緑地懇話会開催	R6:自然共生サイト認定	H24:管理運営協議会設置(淡路島公園と合同)	H24:「あわじ石の寝屋緑地管理運営計画」策定	H27:指定管理開始(R1 から公募による指定管理)	○協議会のさらなる充実		

3-2 リノベーションテーマ

あわじ石の寝屋緑地のリノベーションテーマおよびキーワードを以下の通り設定する。

テーマ：豊かな森を活かした健康づくりやレクリエーション

キーワード：

豊かな森

3-3 リノベーション方針

公園の成り立ちや各施設の利用状況、周辺施設の状況等から総合的に判断し、「新規施設導入」、「機能の更新」、「機能の維持・保全」に分類したリノベーション方針を示す。

対応については、今後、管理運営協議会等で詳細を議論することとする。

なお、実施に当たっては、財政状況・施設の運営状況・社会情勢（ポストコロナ・SDGs等）を考慮し、県民全体のサービス向上に資するように努める。

(1) 現状と課題及び方針

■：新規施設導入 ■：機能の更新 ■：機能の維持・保全

キーワード	施設名	利用状況	課題	対応（○ハード、■ソフト）
豊かな森	展望台周辺（海峡展望台、見上げる展望台、空中展望台）、散策路	<ul style="list-style-type: none"> ●展望台からサンバ等の野鳥観察会の開催などを実施している。 ※小学校の環境学習を2回程度/年実施 ●ハイキングイベントや個人の散策で利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●園路が整備されているため、気軽に里山の中の雰囲気を楽しむことができる一方で、手すりが未設置の急勾配箇所があり、転倒の危険性がある。 ●イノシシによって園路が掘り起こされる。 ●ソーシャルディスタンスを保ちながら過ごすことができる空間であるが、周知が進んでおらず、特に平日の利用はほとんどない。 ●海峡展望台は、明石海峡大橋を真正面から眺めることができる「映えスポット」であるが、周知が進んでいない。 	<p>機能の維持・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○急勾配が連続する健脚コースに手すり等を設置 ○猪により掘り起こされた園路舗装の改修、雨水側溝整備 ■映えスポットの紹介等、「緑地の楽しみ方」を伝えるツールの検討・開発
その他	いきものたんぼ	<ul style="list-style-type: none"> ●いきものたんぼ(棚田)を活かした貴重種観察等の環境学習を開催している ※小学校の環境学習を年2回程度実施 ※生き物調査は年4回程度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生以外の対象者の拡大や新たなプログラムづくりなど、環境学習利用の促進が望まれる。 ●水がぬけてきており、湿生の動植物が生息できる環境が損なわれつつある。 ●マムシが多く、草刈りによる安全管理と畔の植生の保全の両立が求められる。 	<p>機能の維持・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プログラムの充実や環境整備など、淡路景観園芸学校やボランティア等と連携した取り組みの継続
	ため池跡、棚田跡	<ul style="list-style-type: none"> ●特に利用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●セトウチサンショウウオやミズニラモドキといった貴重な動植物が確認されているが（令和2年度淡路景観園芸学校調査）、湿生林化が進んでいる。 	<p>機能の維持・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ■淡路景観園芸学校の協力・連携による新たな公園の利活用（公園をフィールドとした研究活動）を引き続き検討 ■淡路景観園芸学校の協力を得て、いきものたんぼ等湿性環境の保全管理や竹林を活かした活動等と、それらの取り組みが継続的に実施できるような仕組みづくりの検討
管理運営	管理運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ●年2回開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな取り組みを実現する人材、費用がなく、新たな提案が出にくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■淡路景観園芸学校の協力を得て、住民参画の活性化のための仕組みづくりを検討
	住民参画	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアが、あわじ石の寝屋緑地でも活動。いきものたんぼの調査、小学校の環境学習、ハイキングイベントを開催している。 ●R2年度から、淡路景観園芸学校による湿地保全の企画に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メンバーの高齢化・固定化がみられる。 	

(2) 公園をとりまく社会情勢の変化

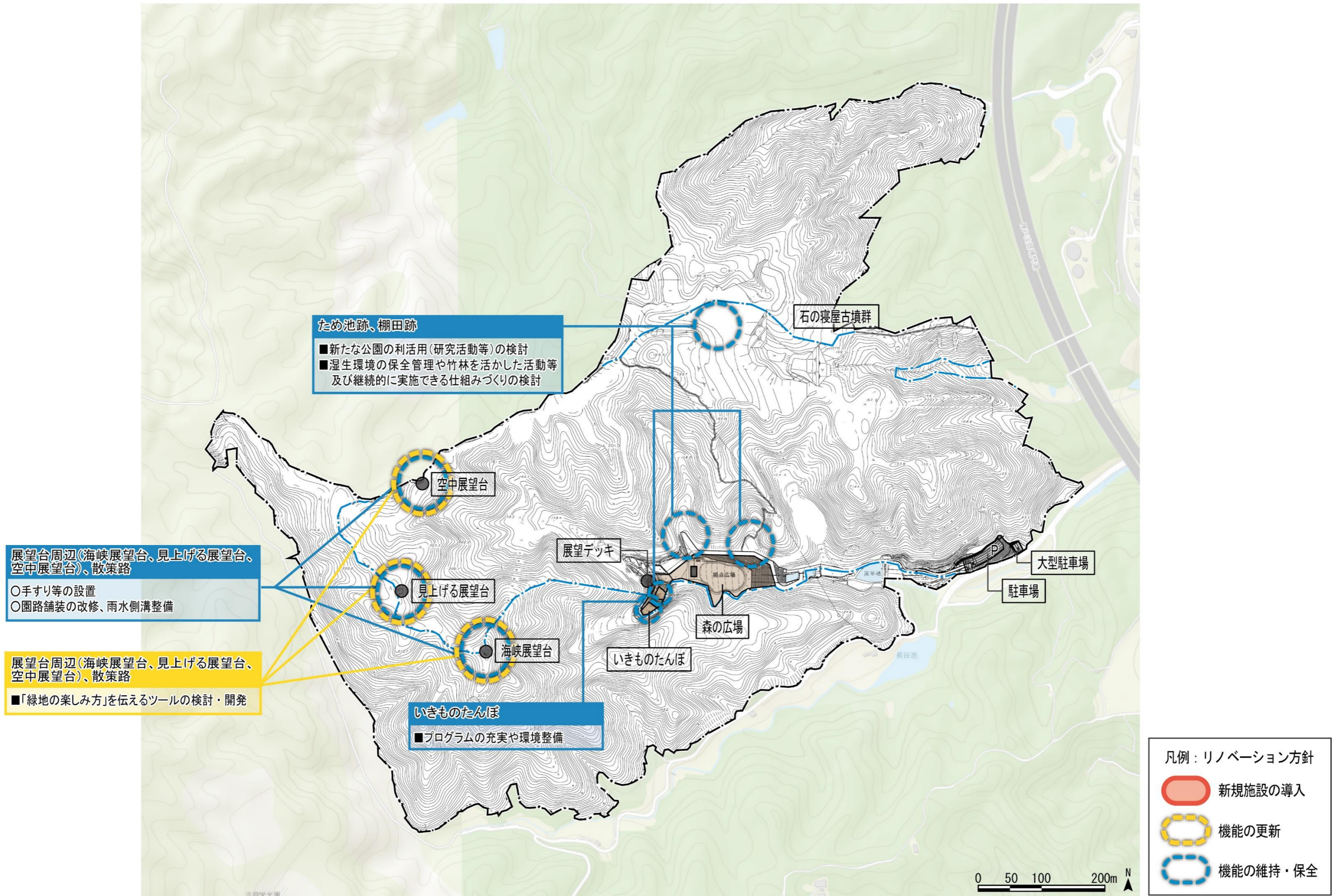
コロナ後等の社会情勢を見据え、施設の新たな活用を検討するとともに、SDGs 達成を目指した取り組みを推進する。

(ポストコロナ)

■公園内外のマイクロツーリズムの展開

- ・ 近隣花緑施設等との連携による石の寝屋古墳、景観スポット巡りなど健康づくりやレクリエーションの充実
- ・ 淡路島北部の自然を楽しんでもらえるよう、魅力の発信に取り組むとともに、安心して散策できる環境を整備

(3) リノベーション方針図 (○ハード、■ソフト)



3-4 取組内容

計画の対象ごとに、課題、実施主体（案）、概要を示し、これに基づいてリノベーションを実施する。

①展望台周辺（海峡展望台、見上げる展望台、空中展望台）、散策路

<課題>

- 園路が整備されているため、気軽に里山の中の雰囲気を楽しむことができる一方で、手すりが未設置の急勾配箇所があり、転倒の危険性がある。
- ソーシャルディスタンスを保ちながら過ごすことができる空間であるが、周知が進んでおらず、特に平日の利用はほとんどない。
- 海峡展望台は、明石海峡大橋を真正面から眺めることができる「映えスポット」であるが、周知が進んでいない。
- イノシシによって園路が掘り起こされる。

<実施主体（案）>

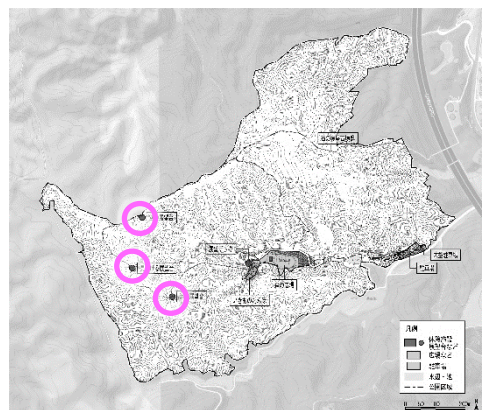
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ 手すり等の設置	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ハ 園路舗装の改修、雨水側溝整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ソ 「緑地の楽しみ方」を伝えるツールの検討・開発	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

<概要>

ハイキング利用者の安全確保のため、危険箇所に手すり設置等の安全対策を実施する。

また、景観の良い場所であるが、公園自体のアピールが弱いため、SNS等を活用し、公園のPRに取り組む。



海峡展望台

②いきものたんぼ

<課題>

- 小学生以外の対象者の拡大や新たなプログラムづくりなど、環境学習利用の促進が望まれる。
- 水がぬけてきており、湿生の動植物が生息できる環境が損なわれつつある。
- マムシが多く、草刈りによる安全管理と畔の植生の保全の両立が求められる。

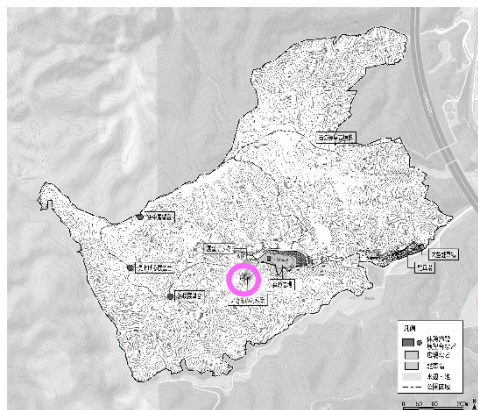
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ソ プログラムの充実や環境整備					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

淡路景観園芸学校やボランティアとの連携を継続し、環境学習利用をさらに促進させる。



いきものたんぼ

③ため池跡、棚田跡

<課題>

- セトウチサンショウウオやミズニラモドキといった貴重な動植物が確認されているが（令和2年度淡路景観園芸学校調査）湿生林化が進んでいる。

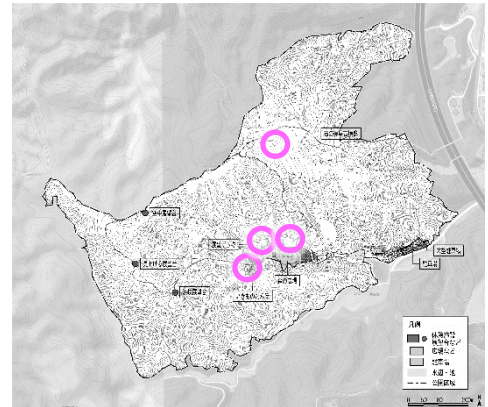
<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	新たな公園の利活用（研究活動等）の検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	湿生環境の保全管理や竹林を活かした活動等及び継続的に実施できる仕組みづくりの検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

淡路景観学校の協力・連携による、環境調査、保全・活用計画の策定を進め、湿生環境の保全管理や竹林を活かした活動等を実施し、それらの取組みが継続的に実施できるような仕組みづくりを検討する。



④管理運営協議会
⑤住民参画

<課題>

- 新たな取組みを実現する人材、費用がなく、新たな提案が出にくい。
- メンバーの高齢化・固定化がみられる。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	住民参画の活性化のための仕組みづくりの検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

淡路景観園芸学校の協力を得て、住民参画の活性化のための仕組みづくりを検討

⑥社会情勢の変化への対応（ポストコロナ時代への対応）

<課題>

- ソーシャルディスタンスを保ちながら過ごすことができるものの、緑地自体の周知が進んでおらず、特に平日の利用はほとんどない。

<実施主体（案）>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	マイクロツーリズムの展開					

<概要>

淡路景観園芸学校、近隣花緑施設、市、県民局等と連携し、石の寝屋古墳や景観スポット巡り、健康づくり、レクリエーションを充実させ、公園内外のマイクロツーリズムを展開する。